

所長だより第71号 令和3年12月 1日

希望の船

We love BIWAKO

「みずうみに学んで世界の明日をひらく人」

滋賀県立びわ湖フローティングスクール
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号

<https://uminoko.jp/>

ICT 活用して学校間交流

【所長 東 文三】



令和2、3年度のフローティングスクールは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため1日航海になりました。通常であれば、グループ活動の班は、複数校の混合班で編成し、びわ湖学習や食事も複数の学校と一緒に活動して友情を育みますが、コロナ禍では感染リスクを避けて、同一校での班編成とし、複数校ができるだけ一緒に一緒に活動しないように計画されることが多くなりました。そのため、乗船後の児童から、「他の学校と交流できなくて残念だった。」との声が多く届きました。

そこで、令和2年度末の「うみのこ」ドック整備で、3階甲板と活動室6部屋に大型モニターと多目的室に各部屋のモニターに送信できる専用カメラを設置しました。今年度の航海は、これらのICT機器やタブレット端末などを活用して、別々の部屋でも交流できるような環境を整備しました。また、下船前には、学習のまとめなどで学校間の交流ができる「湖の子のつどい」の時間を新たに設けました。このような機器や時間を活用した取組の一部を紹介します。

【多目的室から学習のまとめを発表し各活動室で聞く】（上写真）

多目的室の専用カメラを活用して、「湖の子のつどい」の時間に、代表児童がびわ湖学習で学んだことをカメラに向かって発表している姿を、各活動室にいる他校の児童へ映像を送信して交流しました。学校ごとに編成した班のメンバーが6か所の活動室に集まり、大型モニターから流れてくる映像で発表を聞くことができました。

このような形では、学校紹介、学校で作った動画配信、先生が各活動室の児童へ指示や話などする時に活用していただけます。

【タブレット端末と大型モニターを使い、双方向の意見交換が可能】（下写真）

タブレット端末を活用してTEAMSで、学校紹介や学習のまとめを交流しました。この方法では双方向のやり取りができます。その場で質問をしたり、感想を伝えたりする姿が見られました。投影する場所も、多目的室・活動室・3階後部甲板での投影が可能になります。

他にも、活動室の大型モニターで当スクールが作成した動画を視聴したり、甲板の高輝度モニターで水の透視度調査などの学習方法を見たり、多目的室の電子黒板を使い、水中カメラで撮影した湖底の様子を観察したり、タブレット端末を活用してうみのこ図鑑で観察した生き物を調べたりして、ICT機器を活用した学習を実施しています。今後も、ICT機器を活用して、学びを深め、学校間の交流を行っていきます。

